

総務建設委員会視察研修報告

- 日 時 平成 29 年 7 月 4 日（火）～ 7 月 6 日（木）
- 研修先
- ・ 福岡県 糸島市（井原山田縁プロジェクト）
【農業の担い手不足解消を目指す地域オーナー制度について】
 - ・ 福岡県 糸島市【糸島ブランドのシティセールスの取り組み】
 - ・ 福岡県 北九州市（(株)北九州家守舎）
【リノベーションまちづくり（小倉家守構想）について】
 - ・ 大分県 豊後高田市【「昭和の町」による商店街再生について】

総務建設委員会では、「魅力あるまちづくり」をテーマとして、その中でも「農工商連携によるまちづくり」の調査・研究を進めている。今回の研修は、最終的に市へ提言するために、先進事例の視察を実施した。

○井原山田縁プロジェクト

「農業の担い手不足解消を目指す地域オーナー制度について」

この制度は地域の水田放棄地を、作業受託の任意団体『井原山田縁プロジェクト』がサポーターとともに耕作する制度である。年会費 5 0 0 0 円でサポーターになることができ、安心食材の購入や各種イベントへの参加が可能となる。また農作業に参加することで地域通貨がもらえ、生産物や市内の協力店で食事や買い物ができる仕組みであった。サポーター数は今年度 1 4 8 家族にもなる。



サポーターにより管理されている棚田
（井原山田縁プロジェクト）

○福岡県 糸島市「糸島ブランドのシティセールスの取り組み」

平成 22 年の市長による農畜産物の糸島ブランド創出により、第 1 次総合計画に「いとしまブランド」を位置づけ、ブランド推進係を新設。ブランド化の例としては、牡蠣やもずくがあり、もずくについては、漁協と女子高生がコラボし企画・PRをした「糸島ふともずく」が注目された。また、JA による糸島産を中心とする農海産物の直売所などもあり、積極的な取り組みが展開されていた。

○(株)北九州家守舎「リノベーションまちづくり（小倉家守構想）について」

魚町商店街の古い建物を使いやすく様々な人を巻き込んで、新しいまちを創出している現状を視察した。雑居ビルの 1 階を入居者の希望に基づき、小さな区画に分け、若い人達でも少額資金でも始められるショップ経営を手助けする仕組みである。行政と民間が連携し、空きビル等を生かして新たな事業を生み出していた。

○大分県 豊後高田市「『昭和の町』による商店街再生について」

昭和 30 年以降の鉄道の廃止と車社会への変化、郊外型の大型店の進出などにより、衰退する中心市街地の起死回生をかけた取り組み。平成 13 年度に「豊後高田市昭和の町」がオープンしたことで、昭和の町づくりが本格化。その後、駄菓子屋博物館などいくつかの「昭和の町拠点施設」が配置された。施設や店舗数の増加により、今では年間 40 万人の観光客が訪れ、経済波及効果は 91 億円にものぼる。まさに「選択と集中」による成功事例ではないか。



昭和の雰囲気醸し出す商店街

総務建設委員会では、今回の視察や市内各種団体との意見交換を参考に、これから委員会の政策提言に活かしていきます。